



## 小中高生の教育環境の整備に役立つ 資金を14年連続で教育委員会に寄付

### 静岡県遊技業協同組合 「静岡県教育委員会・青少年等 育成3事業支援のための 寄付金の贈呈」事業



静岡県遊技業協同組合  
理事長  
富田直樹さん

#### 地域の子どもたちが合宿生活を通じて 自律力や協調性を身につける事業

持続的な社会や文化を築いていくために大人が果たさなくてはならない重要な責務の一つが、次代を担う子どもたちを守り、育てることであることは言を俟たない。そのための事業を行うには当然、資金が必要となるわけだが、すべてを行政任せにして済むという時代ではない。社会を構成する不可欠な一員である民間企業や非営利団体などが行う寄付が、青少年育成を目的とする様々な事業にとって今や欠かせないものとなっている。静岡県遊技業協同組合では、地域社会の将来を担う子どもたちの健全育成のために、静岡県教育委員会が主催する事業に2005年から14年連続で寄付を行い、その総額は8,170万円となっている。

その一つが、2005年に静遊協の寄付を受けてスタートした「地域における通学合宿事業」である。通学合宿とは、異年齢の子どもたち（小学生・中学生）が地域の宿泊可能な施設で共同生活をしながら学校に通学するもので、食事の準備、清掃などの基本的な生活体験をすることによって、責任感、協調性、他人を思いやる心、規範意識、自己を律する力などを身につけることを目的としている。また、この事業に地域のPTA、自治会、ボランティア団体などが協働することで、地域全体で子どもを育てる環境やネットワークなどを整備することも目的の一つとなっている。

2018年度は静岡県内の150団体、子ども約4,500名、



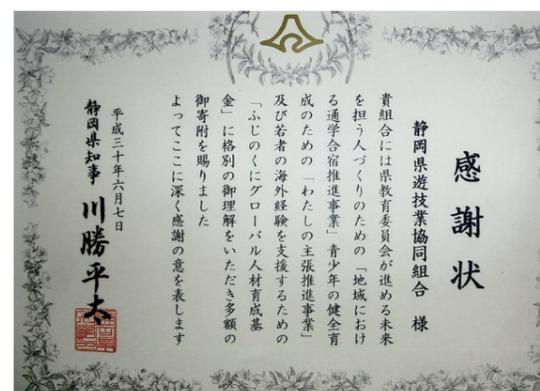
「地域における通学合宿」に参加する子どもたち



静岡県教育委員会への寄付金贈呈式



運営を支援している「わたしの主張」で発表する生徒



静岡県教育委員会が進める事業への支援活動に対し、県知事より感謝状を授与

大人約4,000名が参加した。

### グローバルな視野で活躍できる人材や ものづくり県を担う人材を育む事業

静岡県教育委員会への寄付は、それ以外にも二つの事業に役立てられている。その一つが「グローバル人材育成事業」で、これは社会のグローバル化が急速に進む中、中学生・高校生の段階から海外留学などの異文化交流や国際レベルの技能習得などにより、世界に目を向けながら地域社会の発展に貢献できる人材を育成することを支援するもので、国際感覚豊かな人材の育成のための長期留学（1年程度）、県内大学との連携による短期留学（原則1週間以上、1ヵ月程度未満）、教職員の海外研修（原則1週間以上、1ヵ月程度未満）、海外の大学や研修機関などでの視察・発表や現地高校生との異文化交流を行う「グローバルハイスクール」研究指定がある。

また、「ものづくり県」の次代を担う人材の育成のために、専門高校や総合学科等の生徒を対象とする海外インターシップ（県内2日、海外3泊4日）、ロボット競技等のものづくりの世界大会等へ参加する生徒等を支援するものづくり等世界大会参加もある。グローバル人材育成事業には、2018年度に合わせて250名が参加した。

さらに、中学生年齢の青少年が日常生活の中で考えていることを広く県民に訴えることにより、自分以外のものや社会との関わりについて考え、社会の一員としての自覚を高めるきっかけとするとともに、青少年の健全育成に対する県民の理解と関心を高めるために実施されている「わたしの主張」の事業運営にも寄付の一部が役立てられている。「わたしの主張」は1979年の国際児童年をきっかけに開催され、2018年度で40回目を迎えた歴史ある大会だが、同年度の静岡県大会には県内161中学校から14,720作品の応募があり、審査会を通過した13人が、8月17日に静岡市清水文化会館マリナートで開催された県大会でそれぞれの思いを生き生きと発表した。